

●京都商工会から「京の七夕」まつりの竹笹の受注が3年ぶりにありまして、7月27日の朝8:30分に事務所に集まって木津川の真竹を直径7cmで3.5mの長さに調整して15本切り出しました。そして届け先は京都錦市場商店街で催されるものです。里山の会はこの取り組みが始まった最初に錦商店街に収めました。商店街はかなり道幅が狭く街灯の柱を竹で巻き付けて七夕飾りを取り付けて飾る仕掛けで商品の上に笹が落ちないようにするには随分気を使ったものでした。この日は森島さん太田さん播川さん



大村さんらが切り出しに集まっていただきました。そして10時過ぎに軽トラックで錦商店街からの依頼を受けている取り付け業者の広告店、南区の美也古商会へ無事に届けていただきました。

●今年の「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」の取り組みはコロナ感染対策と異常な気象での熱中症対策に加えて会場（玉水浜）が雑草の繁茂が予想を超える状態に繁茂し、とても水辺に近づけない状態になっているのが分かりました。里山の会は6月11日に周辺を整備し今回に一応備えるように手入れを行って来ました。しかし予想を超える異常気象の暑さと例年の梅雨の時期には1~2回は高水敷に冠水があって雑草の繁茂ができにくくなっていましたが、今年はそうした冠水するほどの出水事例がないままで、まさに雑草が生い茂られる状態が続きました。全力を挙げて会場を作り上げようと知恵を出し合いましたが、この状況では里山の会の力では整えられないことが分かりました。長年木津川本川での取り組みを積み重ねてきた魚とりの取り組みをこうした事情で中止せざるを得ないことは本当に残念でなりません。また厳しい環境の中でも、今年こそは参加してみようと待ち構えておられた皆さんには本当に申し訳なく思います。



水辺に近づけないほど繁茂した雑草



6月11日に刈り取っておいた通路の状態

里山の会の現在のイベントの推進力は80歳代とそれに近い方々にお世話になっているのです。他人のお世話をするのではなく自分の健康管理を行わなければならない高齢者が中心を担っているのです。口惜しさが大きいです。ここを乗り越えようと努力を奮闘しているのですが、思うように人育てに成功できてなく残念です。「自然を大切に作る仲間の輪を大きくする」のスローガン実現へ積極的な名乗りを待っています。

